

## 赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」

### 第14回助成決定に当たって

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(以下、「ボラサポ」と略)の第14次の助成先を決める配分委員会(第16回)を開催しました。

基本的には、応募要項ならびに本ホームページ掲載の「(第1回から第13回までの)助成決定に当たって」の考え方に沿いながら、審査しました。

以下に、今回の応募案件の審査過程で検討した事項について整理し、助成先の選考にあたっての考え方をまとめました。

#### 1. 第13次の応募状況と助成決定状況

##### (1) 応募状況

5月12日から5月27日を受付期間とした第14次募集では、1か月未満の「短期活動」に52件・2,006万円、1か月以上の「中長期活動」に、64件・1億6,287万円の応募がありました(合計:116件・1億8,293万円)。

応募件数は、第11次から比較して半分以下となった第12次・第13次のほぼ横ばいとなりました。ただし、応募件数に含んでいない要件不備の応募が75件あり、これは応募件数と合わせた全体の約4割を占める数となりました。第13次以降、要件不備を減らすために取り組んでいる対策では一定の成果が認められましたが、要件不備の数が第13次の2倍以上となったことは大変残念です。

この状況を踏まえ、運営委員会、配分委員会で協議した結果、2.(2)に述べるような対策を行うことになりました。応募団体は必須書類についても十分確認のうえ応募いただくようお願いします。

##### (2) 全般的な傾向

第14次応募の活動では、次のような傾向が見られました。

- ①短期活動の応募では、夏休みを前にした応募期間だったこともあり、保養の活動が全体の11%ほどを占めました。当初より助成対象としている活動ですが、今もニーズがあることが伺えます。またここ最近の傾向と同じく、過去にボラサポに応募したことのある団体からの応募が約85%と圧倒的に多くなっています。年に数回、継続して活動している団体がボラサポを活用していることの表れだと考えられます。
- ②中長期活動の応募からは、「生きがい」「就労」などをキーワードとした活動が多く見られました。応募要項で「この先を意識した活動」を重視するというメッセージを出していますので、今後もこうした活動に期待したいところです。また、全体的に「ボランティアが少なくなった」という記載が多くの応募書から読み取れました。客観的な数字の変化というよりは感覚としてのものだと思いますが、13次までと比較すると明らかに記載が多かった点は一つ注目すべきことだと考えます。
- ③数は多くありませんでしたが、精神的に厳しい状況にある方への支援活動や医療機関等へつなぐことを目的とする活動など、これまでの「心のケア」という段階より少し踏み込んだ活動が数件見られ

ました。震災から3年が過ぎ、ハード面での復興は進みつつあっても被災した人たちの精神的なケアはまだ必要とされていることが伺えました。

- ④全国各地に避難している広域避難者への支援活動も多くありました。この状況を踏まえ、今後のボラサポについて配分委員会で検討を行いました。(2.(1)参照)

## 2. 第15次以降のボラサポのしくみについて

### (1) 助成の延長を検討します

ボラサポは今年度あと2回の助成を行って終了し、2015年4月からは現在寄付を募っている「ボラサポ2」として新たな助成を始めることとしていました。ボラサポ2の具体的なしくみはこれからの検討となりますが、主には被災3県での支え合い活動に対する助成を予定しています。

しかし、今回第14次の応募で要件不備まで含めるとかなり多くの応募が寄せられたこと、特に中長期活動において広域避難者支援活動の応募が多かったことから、2015年4月からボラサポ2に完全に移行することでまだ必要とされる活動に助成ができなくなる懸念があると考えました。

そこで、次回第15次の応募状況を見ながら、第17次の助成を実施するかどうか検討することとしました。第17次助成については、検討終了後に改めて発表を行います。

### (2) 要件不備となる応募を減らすために

第14次では要件不備となった応募が75件ありました。主には必須書類の要件を満たさないことが理由での不採用となります。第15次ではなるべくこの件数を減らすため、運営委員・配分委員会で協議した結果以下のような取り組みを行います。応募する団体も十分確認のうえ応募いただくようお願いします。

#### ① 締切前に応募することのメリットを改めて周知します

締切前の指定した期日までに届いた応募については、不備があった場合に事務局より必ず連絡をしています。第14次で指定日までに応募し、不備があった団体は事務局からの連絡により書類を修正することができました。それにより要件を満たして応募受付となった団体は8割を超えました。修正の機会があれば、要件を満たせる可能性が非常に高いということを改めて周知し、なるべく締切前の指定した期日までに応募することを団体に呼びかけていきます。

#### ② 必須書類の作り方に関するまとめをホームページに掲載します

これまでも不備となることの多い事例やその解決方法などについてはボラサポ公式 Facebook ページで発信してきました。しかし、Facebook ページまで確認しない団体が多いように考えられることから、該当の記事をまとめてホームページに掲載することにします。初めて応募する団体や、これまで要件不備になってしまった団体については特にこのページを確認してください。

#### ③ 要件不備の具体例を記載していることを改めて周知します

第13次から、応募の手引きP.6～7に要件不備となる具体的な例をまとめて示しています。これについても認識していない団体が多いと考えられることから、改めて周知を行います。

### (3) 中間支援組織による団体への支援を期待します

上記で述べたようにボラサポ事務局としても要件不備を減らすための取り組みを進めますが、団体の書類作成や計画づくりなどについて各地域で相談に応じる中間支援組織の役割がますます重要になっていると考えます。助成を受けた活動をどう展開するか、他の活動団体とどう連携するかなど、今後の活動展開について相談できるところがあることは、個別の団体のサポートという意味以上にその地域全体の活動を発展させることにつながります。各地の中間支援組織にはそうした役割を果たすことを期待するとともに、特に被災3県の中間支援組織においてはそうしたサポート活動でボラサポに応募することも検討いただきたいと思います。

### 3. 終わりに

2011年5月に第1回の助成を決定したボラサポも、今回で第14回目を迎えました。この間に、被災地を取り巻く状況や活動を続ける団体への支援状況も大きく変わってきました。ボラサポもそうした変化に対応しながらほぼ毎回応募要項を変更して今に至っています。

要件不備が非常に多くなったことについて、委員から残念だという声が多く上がりました。必須書類として求めている条件の緩和をするべきかどうかについての議論もしました。しかし、今後ますます活動団体への助成金などは減っていくこと、特に震災支援に特化した助成が少なくなることが予想されます。そうした状況を前に、仮にボラサポで条件を緩和して助成が受けられるようにしたとしても、必須の書類が作成できないことで他の助成や企業からの支援が受けられない状況を作ってしまうことは、団体の支援にはつながらないと判断しました。その代わりに事務局からできる限りの情報提供を行うこと、事前の提出期限までに応募のあったところには不備内容を連絡することで、団体が必要な書類を作成できるような支援をしていきたいと考えています。ボラサポに応募する団体にも「この先」を意識した応募をお願いしていますが、ボラサポを運営する私たち自身も「この先」を意識して残りの助成を行っていきたいと思います。

以上

赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」  
配分委員会 委員長 山崎美貴子